

看護研究 第22巻 総目次

1989年(第1号～第5号)

[焦点]

変貌する“家族”概念

解説 家族の現在とゆくえ……………114(2)

山根 常男

解説 家族生活のライフスタイル……………126(2)

藤見 純子

解説 離婚と子供の監護——子の福祉の観点から
……………137(2)

下夷 美幸

解説 子育てと家族……………149(2)

依田 明

解説 老人家族の変容……………159(2)

高橋 正人

家族療法の理論と実際

解説 家族療法の理論および技法論(概説)……………202(3)

岡堂 哲雄

解説 システムズ・アプローチによる家族援助の
理論と実際……………215(3)

亀口 憲治

解説 短期療法——ソリューション・フォーカス
ト・アプローチ……………225(3)

長谷川恵三

解説 コミュニケーションの視点から……………232(3)

佐藤 悦子

解説 Bowenの家族システム理論と家族援助 ……241(3)

服部 陽児

海外文献 Family Theory and Family Therapy

Models:Comparative Review with

Implications for Nursing Practice

家族理論モデルと家族療法モデル:

看護実践への適用に関する比較検討……………252(3)

S.L.Jones, M. Dimond/訳・神戸 恵子

看護における家族研究の現状

研究レポート 自宅退院を間近にした患者の不安に

影響を及ぼす家族的要因——リハビリテーシ

ョン施設における聴き取り調査を基に……………290(4)

沼本 教子/瓢風須美子/渡辺タミ子

研究レポート 配偶者と死別した個人の悲嘆からの

回復にかかわるソーシャル・サポート……………303(4)

宮本 裕子

研究レポート 終末期患者の家族に対する看護

——家族ダイナミクスへの看護介入のあり方

……………323(4)

荒川 靖子/佐藤 禮子

研究レポート 脳卒中後遺症をもつ高齢患者の

家庭復帰——患者を含めた家族の介護指導へ

のかかわり……………342(4)

清水 洋子

海外文献 Family Systems:Values and Value

Conflicts——New Applications of the

Theory to Clinical Practice and in

Nursing Education

家族システム:価値観と価値観摩擦——臨床

実践と看護教育への理論の新しい応用……………351(4)

A. R. Swanson, P. M. Hurley/訳・松谷美和子

看護における家族研究の課題

解説 家族看護学への展望:アメリカ合衆国の

ファミリーナーシングの動向を通して……………378(5)

野嶋佐由美

綜説 精神障害者の社会復帰における家族の役割と

家族支援——英米圏の研究動向と看護職の課題

……………386(5)

羽山由美子

解説	看護における家族分析・援助のための枠組の検討——演繹的・帰納的アプローチを試みて	403(5)
	島内 節	
解説	家族援助における看護の視点——老人介護の受容過程と家族関係を中心として	420(5)
	高崎 絹子	
座談会	看護における家族研究の現状と課題——看護独自の家族理論を開発するために	438(5)
	伊藤真由美／野嶋佐由美 高崎 絹子／島内 節	
海外文献	Bereavement Outcome for Widows 配偶者喪失による悲嘆過程	454(5)
	M. J. Hauser／訳・黒江ゆり子	
海外レポート	家族査定法としてのEEの日本への適用と英国におけるEE研究の最近の動向	466(5)
	羽山由美子	
[特集] 看護実践における評価研究——ケアの効果はどのように測ることができるか		
第Ⅰ部	米国における看護の評価研究の動向	
1.	評価研究の定義とモデルの概念化	4(1)
	W. L. Holzemer	
2.	モデル変数によって構成された研究の知見	10(1)
	C. A. Lindeman	
3.	実践における評価研究：例——術前患者に対する介入の探索過程	12(1)
	C. A. Lindeman	
第Ⅱ部	看護のための評価研究の課題と可能性	
4.	コンピュータ・テクノロジーと評価研究	20(1)
	W. L. Holzemer	
5.	倫理問題と評価研究	24(1)
	W. L. Holzemer	
6.	研究の活用：研究は実践を変えるだろうか？	26(1)
	W. L. Holzemer	
7.	看護実践の本質と目標：臨床看護問題の研究に関する代替案	29(1)
	C. A. Lindeman	

8.	要 約	34(1)
	C. A. Lindeman	
第Ⅲ部	評価研究の実施過程	
9.	研究課題を一般化する3本柱のアプローチ	42(1)
	C. A. Lindeman	
10.	研究デザインの選定	52(1)
	W. L. Holzemer	
11.	研究の方法論：標本の抽出と測定用具	61(1)
	W. L. Holzemer	
12.	要 約	70(1)
	C. A. Lindeman	
第Ⅳ部	演 習	77(1)
	公開講座小委員会	

[研 究]

脊髄障害者における排便の自己管理——直腸粘膜の刺激による排便反射の誘発法	169(2)
比嘉 元子／渡辺 洋介／ 仲間 理／下地みさ子	

[海外論文]

Adaptation: A Feedback Process 適応：フィードバック過程	177(2)
G. M. Goosen, H. A. Bush／訳・前田 夏実	
Orem's Model Used for Health Promotion: Directions from Research 健康増進へのオレムモデルの使用： 研究からみた示唆	264(3)
M. J. Denyes／訳・小野寺杜紀	

[英語論文へのアプローチ]

誤訳のすすめ(1)	189(2)
誤訳のすすめ(2)	273(3)
誤訳のすすめ(3)	359(4)
誤訳のすすめ(4)	472(5)

[書 評]

オレム看護論（改訂第2版）	286(3)
松木 光子	
生活習慣と健康——ライフスタイルの科学	373(4)
羽山由美子	